

令和5年度 学校推薦型選抜Ⅰ 入試採点基準

問1

魚の育つ環境を作るには、多くの魚種が産卵し、ふ化した魚の子どもが安全に成長できる場所が必要である。海藻（海草）が多く生える藻場はそのための良い環境である。磯焼けとは藻場が減少することを言うが、磯焼けの原因の一つと考えられているウニなどの増殖から藻場を守るために、小さなウニの駆除や捕獲を行っている地域もある。年々海岸の開発が進んで自然の海岸線が少なくなっているが、海水を浄化する作用がある貝類やゴカイなどが生息する干潟を行き過ぎた開発から守ることで水質の向上や魚のえさとなる生物を護ることができ、魚の成長を助けることができる。また、川から流れ込む水を汚さないようにすることで窒素やリンなどによる富栄養化を防ぐことができれば、魚の生育に有害なプランクトンの増加による赤潮被害などを防ぐことが期待できる。(350字)

問2

子どもの魚を保護するには、小さな魚が漁獲されないようにすればよい。そのためには漁獲する道具の工夫が必要で、大きな網目の網を使う、大きな釣り針を使うなどが考えられる。親になる魚を残すには、魚を獲りつくしてしまわないように獲る魚の量を制限することが必要である。そのためには国や県などの行政機関は魚の資源量を科学的に調査し、それをもとに獲っても良い量を決め、漁業者はその決まりを守って水揚げを制限すればよい。そうすれば残った魚は次の世代の親になって卵を産み、資源は再び増えて漁業を持続していくことができる。卵を産む親を残すためには魚が産卵する時期や場所を詳しく調べ、その期間の漁獲を禁止したり、特定の産卵場所で漁獲することを禁止したりすればよい。それによって生き残る子どもの数が増えて次の世代の魚を増やすことができる。(356字)